

授業科目「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」が生徒の職業意識・キャリア意識の形成に与える影響：A県B高校での実態調査から(2)

原, 健司 / HARA, Kenji / KOMIKAWA, Koichiro / 児美川, 孝一郎

(出版者 / Publisher)

法政大学キャリアデザイン学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

生涯学習とキャリアデザイン / 生涯学習とキャリアデザイン

(巻 / Volume)

15

(号 / Number)

1

(開始ページ / Start Page)

63

(終了ページ / End Page)

79

(発行年 / Year)

2017-11

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00014257>

授業科目「産業社会と人間」「キャリアプランニング」 「キャリアデザイン」が生徒の職業意識・ キャリア意識の形成に与える影響 — A 県 B 高校での実態調査から (2) —

元埼玉県立大宮光陵高等学校教諭 原 健司
法政大学キャリアデザイン学部教授 児美川孝一郎

1 はじめに

児美川 (2016) 「総合学科は生徒にいかなる意識・能力を育てているか—A 県 B 高校での実態調査を踏まえて—」は、総合学科の教育が、その制度のタテマエや理想ではなく、實際上、生徒たちにいかなる意識や能力を育てているのかについて、総合学科高校である A 県 B 高校の事例に即して考察した。

そこでこの主要な知見は、総合学科としての B 高校の教育が生徒に育てている意識や能力は、「職業意識」であるというよりは、「キャリア意識」であると推察できるというものである。ここで「職業意識」とは、職業に向かおうとする意識とし、「キャリア意識」とは、将来の進路は自ら探求し、自己決定し、実現していかなければならないという自覚、また、そのために必要な汎用的能力を身につけようとする意識¹⁾のことを指す。

本論文は、先に挙げた推察に至る調査分析を具体的なデータに基づき示すものであり、児美川 (2016) では十分には提示していなかった考察や分析の根拠を提出することを目的とする。また、B 高校における必修科目である「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」の3つの科目それぞれの学習内容が「キャリア意識」

の形成にどの程度影響したかについても考察する。従来、総合学科の研究においては、高校1年次に開講される原則履修科目である「産業社会と人間」に注目して、受講前と受講後で生徒の意識や能力にどのような変化が生じたかを分析するものが多かった。しかし、本研究は、高校1年次の「産業社会と人間」だけではなく、2年次の「キャリアプランニング」、3年次の「キャリアデザイン」と三つのキャリア形成科目をつなげて分析しようとした点に、また、それぞれの科目内の学習内容に即して、1授業時間単位で分析をした点に、これまでの研究には見られない独自性を持つと考えている。

さて、総合学科では、普通科目と専門科目を生徒が選択履修するとともに、キャリア教育を重視している、B 高校においては「一人一人が自分の進路や将来を考えるためのキャリア教育が充実しています。その中心となる科目が「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」「総合研究」です²⁾」と案内されている。「産業社会と人間」(1年次2単位)は原則履修科目であり、「キャリアプランニング」(2年次1単位)、「キャリアデザイン」(3年次1単位)、「総合研究」(3年次1単位)は総合的な学習の時間を充てているた

め、必修科目である。また、総合学科の原則履修科目である「課題研究」は、B高校では「総合研究」の名称で開設されている。本調査が対象としたのは、「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」の3科目の学習内容であり、それらが生徒の「職業意識」や「キャリア意識」の形成に、どの程度効果的に影響を与えているかについて検証した。

使用するアンケート質問は、「職業意識」に関する質問、「キャリア意識」に関する質問、「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」の学習内容に関する質問の3種類である。「職業意識」に関する質問は、全生徒対象の生徒アンケート調査初回（5月、年度初めの時期）と第2回（2月、授業がほぼ終了する時期）の2回実施した。また、「キャリア意識」に関する質問と「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」の学習内容に関する質問は、第2回生徒アンケート調査で実施した。経過の詳細は、児美川（2016）で述べられている。

総合学科は、開設当初にはその進学者像として、卒業後は就職を希望する者、大学等の上級学校に進学希望の者、就職又は進学を決めかねている者を想定していた。つまり、進路が進学、就職、未定のいずれであっても、「将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること」が教育の特徴とされていた³⁾。本調査では結果として、B高校においては3つの科目の学習内容は、「職業意識」よりも「キャリア意識」の形成に強い関連が見いだされるという総合学科の教育の特徴をとらえることができた。

2 「職業意識」質問の回答結果について

「職業意識」を問うために、次の9つの質問を準備した。

質問 以下のことがらについて、あなたにあてはまる番号を1つ選んで下さい。

(1) 職業について考えることがある

(2) 将来つきたい職業がある

(3) 今後の進路と職業について具体的に考えている

(4) 将来の職業のために準備している

(5) 進学するならば、将来の職業を重視して選ぶ

(6) 進学するならば、好きなことの学習を重視して選ぶ

(7) 進学するならば、資格取得を重視して選ぶ

(8) 将来、社会で積極的に働きたい

(9) 働くことを体験して（中学・高校の就業体験など）将来、働くことのイメージを持っている

それぞれの回答は、「おおいにあてはまる」「あてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」から一つを選択するものとした。なお、質問（8）については、第2回一年次生対象の生徒アンケート調査の用紙に印刷ミスがありデータは取得できなかった。各回答の状況は、図1に示すとおりである。

回答の傾向を、「おおいにあてはまる」の割合で見ると、質問（1）（2）（5）（8）は40%～50%と高く、質問（3）（4）（6）（7）（9）は30%～20%程度と低い。各質問の年次・アンケート時期ごとの変化を読み解くに当たって、各学年の初回と第2回の比較は同じ生徒が回答していることから、学年集団毎の個性は影響しないので対応検定⁴⁾を実施した。その他の組み合わせについては、初回アンケートと第2回アンケートそれぞれについて、独立検定多重比較⁵⁾を実施した。データは時間に沿って並べ、その変化が読み取り可能であると仮定した。なお、回答が変化する理由は、1年間のキャリア教育の効果の側面と、年齢上昇などの点が考えられる。

質問（1）では、3年次初回45.8%から第2回62.6%と有意に急増している。3年次になれば当然、卒業後の進路について生徒の意識も高まるであろうし、学校からも進路決定を迫られるので、「職業について考えることがある」生徒は増えている。また、1年次初回44.1%から第2回52.8%、2年次初回45.0%から第2回48.9%の変化にも統計的に有意な差が見いだされる。

質問(2)は、3年次初回49.3%から第2回61.7%の急増のみが有意である。つまり、「将来つきたい職業がある」生徒は1年次から2年次にはあまり変化しないが、3年次に急増することが分かる。

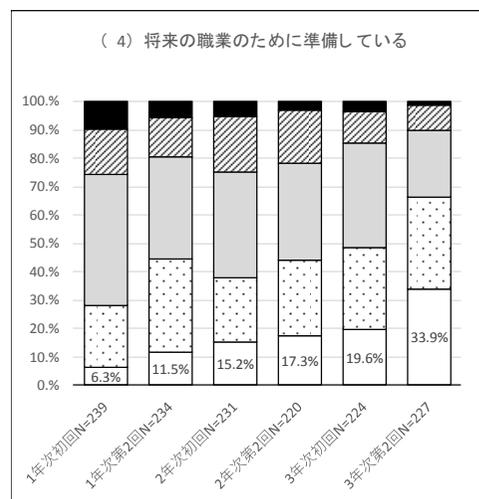
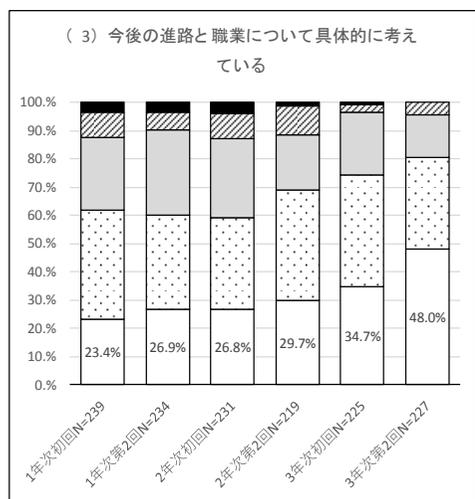
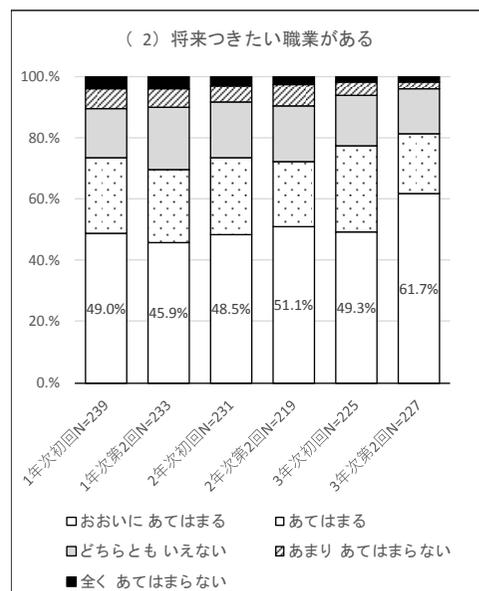
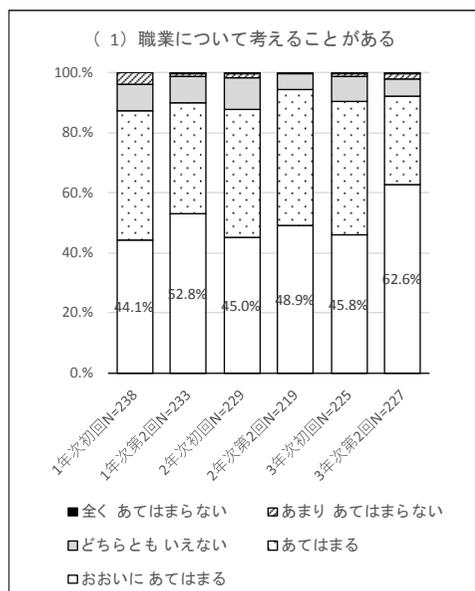
質問(3)「今後の進路と職業について具体的に考えている」生徒は、1年次には変化がないが、

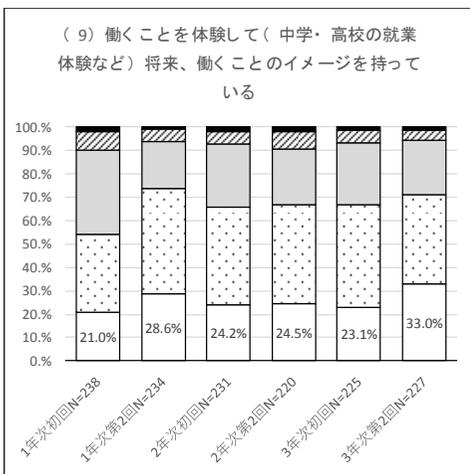
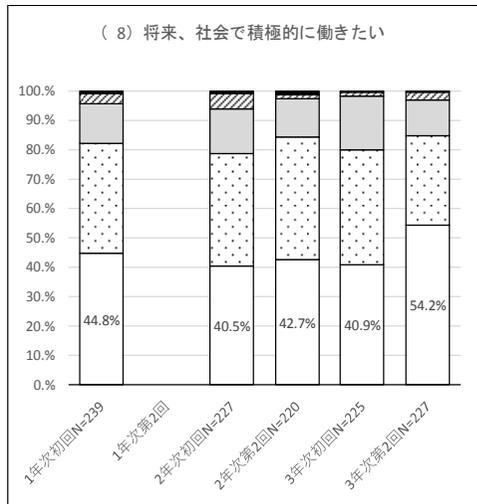
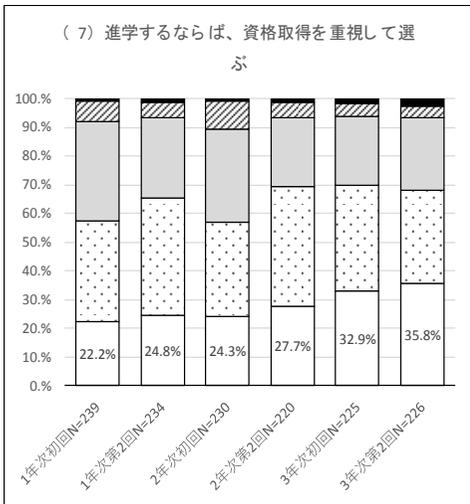
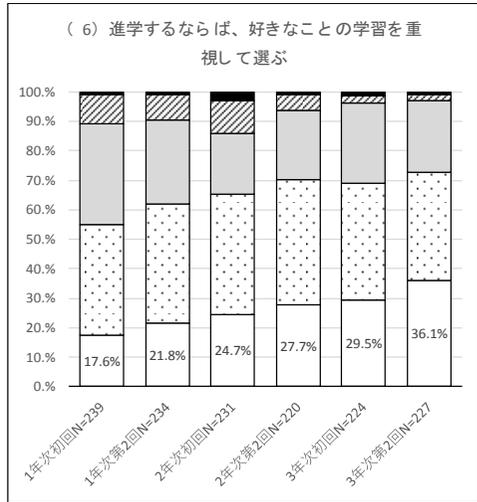
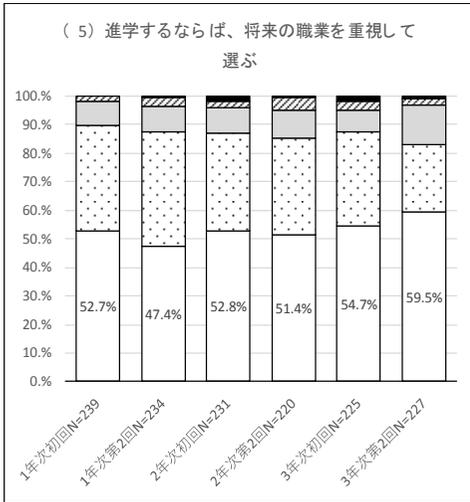
2年次初回26.8%から増加が続き、3年次第2回48.0%になる。

質問(4)「将来の職業のために準備している」生徒は、1年次初回6.3%から年次が進行する毎に増加傾向を示し、3年次第2回33.9%になる。3年次第2回は、他のすべてに対して統計的に有意な差がある。

図1 「職業意識」に関する質問項目の回答

各グラフ内の凡例はすべて同じであり、データラベルは「おおいにあらはまる」の割合である。





質問 (5) (6) は対をなしている。「進学するならば、将来の職業を重視して選ぶ」生徒は、3年間変化無く50%程度である。それに対して「進学するならば、好きなことの学習を重視して選ぶ」生徒は、1年次初回17.6%から3年次第2回36.1%まで増加傾向が見られる。特に、2年次初回から2年次第2回は、統計的に有意な差がみられる。2年次になると選択科目を学ぶことにより、自らの興味・関心が明確になってくると考えられる。

質問 (7) は、1年次には変化がなく、2年次初回24.3%から増加傾向を示し、3年次第2回35.8%である。質問 (8) は、データが欠けているが推測すると1年次から2年次までは変化がなく、3年次初回40.9%から3年次第2回54.2%と急増する。質問 (9) では、働くことを体験して将来、働くことのイメージを持っている者は、1年次初回21.0%から第2回28.6%と3年次初回23.1%から3年次第2回33.0%に有意な増加がみられる。1年次の部分は就業体験を含む「産業社会と人間」が影響している可能性がある。

3 「キャリア意識」質問の回答結果について

第2回アンケートにおいては、「キャリア意識」を問う次の6個の質問を設定した。

質問 次のようなことについて、あなた自身にはどの程度あてはまりますか。

あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで下さい

- (01) 入学時よりも、将来の職業や進路など、自分のことは自分で決めようと意識するようになった
- (02) 入学時よりも、自分で考えたり、行動したりするようになった
- (03) 入学時よりも、将来、社会に出て行くことに自信が持てるようになった
- (04) 入学時よりも、自分の意見を発言できるよ

うになった

(05) 入学時よりも、うまくいかないことや失敗することがあっても、ねばり強く取り組めるようになった

(06) 入学時よりも、職業や進路に関心を持つようになった

それぞれの回答は、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「ぜんぜんあてはまらない」から一つを選択するものとして。各回答の状況は、図2に示す。

回答の傾向を「とてもあてはまる」の割合で見ることとし、各学年の違いをKruskal-Wallis検定 ($p<0.05$) で多重比較をおこなった。それによると、以下の点が判明した。

質問 (01) の「入学時よりも、将来の職業や進路など、自分のことは自分で決めようと意識するようになった」の回答は、各年次の差は見いだせない。

質問 (02) は、1年次41.7%、2年次38.2%に対して、3年次52.0%と高い値を示している。「入学時よりも、自分で考えたり、行動したりするようになった」生徒は3年次に多い。1年次と2年次に差は見いだせない。

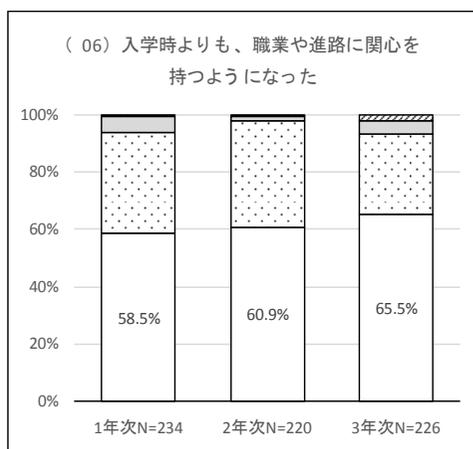
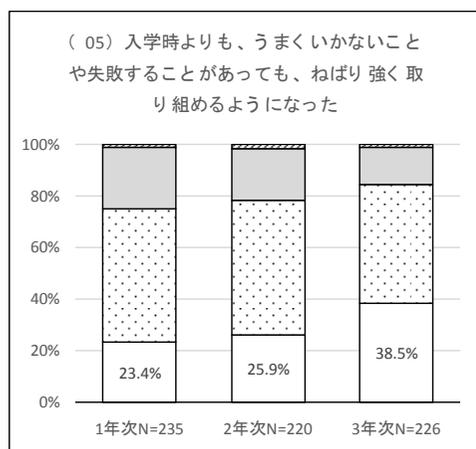
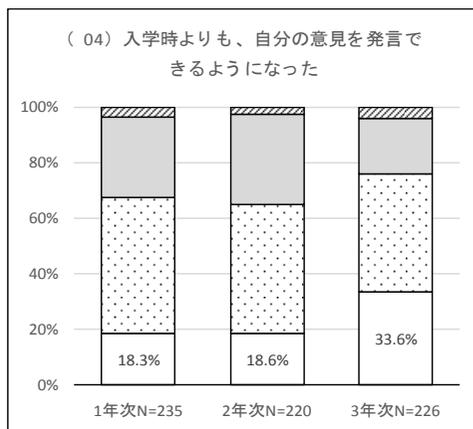
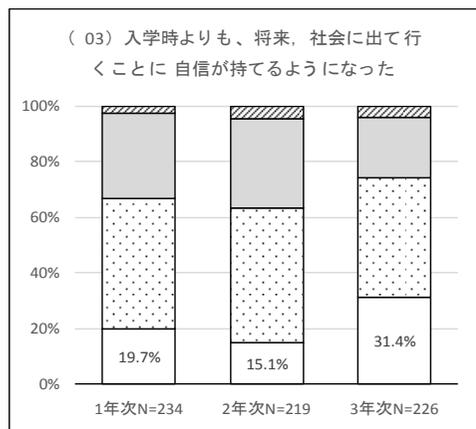
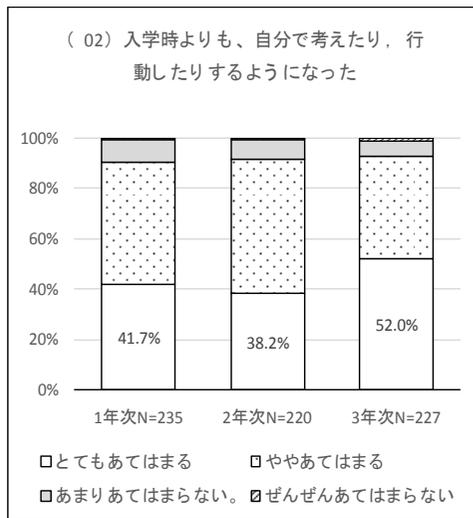
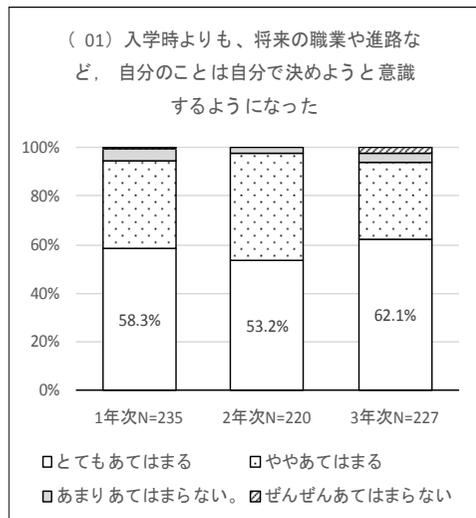
質問 (03) は、1年次19.7%、2年次15.1%に対して、3年次31.4%と高い値を示している。「入学時よりも、将来、社会に出て行くことに自信が持てるようになった」生徒は3年次に多く、差は有意である。

質問 (04) は、1年次18.3%、2年次18.6%に対して、3年次33.6%と高い値を示している。「入学時よりも、自分の意見を発言できるようになった」生徒は3年次に多い。1年次と2年次に差は見いだせない。

質問 (05) は、1年次23.4%、2年次25.9%に対して、3年次38.5%と高い値を示している。「入学時よりも、うまくいかないことや失敗することがあっても、ねばり強く取り組めるようになった」生徒は3年に多い。1年次と2年次に差は見いだせない。

図2 「キャリア意識」に関する質問項目の回答

グラフ内の凡例はすべて同じであり、データラベルは「とてもあてはまる」の割合である。



質問(06)の「入学時よりも、職業や進路に関心を持つようになった」の回答は、各年次の差は見いだせない。

全体をみると、1年次初回アンケートから高い値で、3年次第2回まで変化がないのは、質問(01)「入学時よりも、将来の職業や進路など、自分のことは自分で決めようと意識するようになった」と質問(06)「入学時よりも、職業や進路に関心を持つようになった」である。一方、質問(02)「入学時よりも、自分で考えたり、行動したりするようになった」質問(04)「入学時よりも、自分の意見を発言できるようになった」質問(03)「入学時よりも、将来、社会に出て行くことに自信が持てるようになった」質問(05)「入学時よりも、うまくいかないことや失敗することがあっても、ねばり強く取り組めるようになった」は、3年次の期間に増加することが特徴である。「職業意識」項目にあるような3年間を通じて増加傾向の項目は存在しない。

4 「職業意識」「キャリア意識」と授業内容の関連

ここでは「職業意識」「キャリア意識」の質問項目と「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」の授業内容の関連を比較し、B高校のキャリア教育において、「職業意識」や「キャリア意識」の形成にはどのような授業内容が関連しているかを分析する。

(1) 「産業社会と人間」の学習項目と「職業意識」「キャリア意識」との関連

1年次に学習する「産業社会と人間」の学習後において、学習内容が将来のためになるかを質問した。もし、「職業意識」や「キャリア意識」の形成に学習内容が効果を持つならば、学習内容の有用感は「職業意識」や「キャリア意識」の強さに相関関係が見いだされるのではないかと想定したためである。

「産業社会と人間」は1年次に学習するが、2年

次生、3年次生についても年次を超えて振り返りの質問をしている。ここでは、1年次生の第2回アンケート(2月)の「産業社会と人間」の学習直後に質問したデータを使用する。学習内容は17項目の質問に分類し、質問した。(質問内容は表1を参照)質問は以下の通り。

質問 1年次に学んだ「産業社会と人間」で、次の授業内容は自分の将来のためになると思いますか。(授業内容17項目を列挙)

回答は、①「とても将来のためになると思う」②「やや将来のためになると思う」③「どちらとも言えない」④「あまり将来のためにならないと思う」⑤「まったく将来のためにならないと思う」から一つを選択するものとした。この回答で、①を選択した生徒を「A とてもためになるグループ」とし、②を選択した生徒を「B ためになるグループ」とし、③④⑤を選択した生徒を「C ためにならないグループ」とし3つに分けた。そして「職業意識」と「キャリア意識」質問項目の回答分布が3つのグループで差が見いだされるかどうかを調査した。

方法を例で示すと「産業社会と人間」の「01 聞く力と書く力のワーク：6人の担任の先生の話聞き、的確にポイントを捉えてメモを取る練習や聞く姿勢を学ぶ」という学習項目の回答について、「職業意識」の質問「(9) 働くことを体験して将来、働くことのイメージを持っている」の回答がグループ化された生徒グループABC間で比較して差があるかをKruskal-Wallis検定でp値0.0002で多重比較をおこなう。その結果は、AとBグループ間($p < 0.0001$)では差が見いだされるが、AとCグループ間($p = 0.001$)、BとCグループ間($p = 1.000$)では差は見いだせないというものであった。つまりこの例では「1組に差が見いだされる」という結果になる。

一般には、関連の強い順に「多重比較で3組の差が見いだされる」「多重比較で2組の差が見いだされる」「多重比較で1組の差が見いだされる」

「差は見いだされるが多重比較では見いだせない」「差が見いだされない(棄却できない)」と5通りのいずれかになる。

以上のどの結果になるかを「職業意識」「キャリア意識」の質問項目の14個と学習内容の17項目について238個の組み合わせについて検定を行った。その結果を表1に示す。例に挙げた「1組に差が見いだされる」という結果は表1の1行14列の「1」という数字で表記されている。表記については表の下欄に注釈を参照のこと。

結果として、238個の組み合わせで104個(43.7%)に差が見いだされた。全般の特徴は、以下のとおりである。学習内容との関連の強さを多重比較で差があった組数を単位に得点化して表に示した。以下、関連の強さは得点の大きさに判断している。得点の計算方法は表の得点欄に記載してある。

表1からその特徴をまとめると次のようになる。

①「産業社会と人間」の学習内容に関連が強い意識項目の上位6個は次の通りである。

キャリア意識 (02)「入学時よりも、自分で考えたり、行動したりするようになった」

職業意識 (9)「働くことを体験して将来、働くことのイメージを持っている」

キャリア意識 (06)「入学時よりも、職業や進路に関心を持つようになった」

キャリア意識 (03)「入学時よりも、将来、社会に出て行くことに自信が持てるようになった」

キャリア意識 (05)「入学時よりも、うまくいかないことや失敗することがあっても、ねばり強く取り組めるようになった」

キャリア意識 (01)「入学時よりも、将来の職業や進路など、自分のことは自分で決めようと意識するようになった」

上位には「キャリア意識」の質問が多く、職業に向かおうとする意識を問うた「職業意識」の質

問に比べ、「キャリア意識」質問の方が学習内容との間に強い関連が存在していることが明確に現れている。

② ①で挙げた6個の意識項目、職業意識 (9) およびキャリア意識 (02) (06) (03) (05) (01) に注目して、意識形成に効果のあった学習内容についてみると、多少の無関連な学習内容も有るものの、ほぼすべての学習内容が関連していると言える。

ここで注意しなければならないのは、表1の関連性の結果は、検定のp値0.0002の値に依存している。この値を $p=0.01$ とするともっと多くの有意な関係が見いだされ、関連があると判断される学習内容と意識項目の組み合わせは増えていく。そのとき①の6個の意識項目はほとんどすべての学習内容に関連性が表れる。個々に判断するにはp値0.01で十分である。しかし、今回は238個全体が織りなす傾向の精度を確保したかったので、あえてシビアなp値を採用している。

以上のことからB高校の「産業社会と人間」においては、「職業意識」よりも「キャリア意識」の形成が、「産業社会と人間」の学習内容に関連していることが示される。また「産業社会と人間」の17個すべての学習項目は、上位6項目の「職業意識」「キャリア意識」のどれかに関連をしている。

(2)「キャリアプランニング」の学習項目と「職業意識」「キャリア意識」との関連

2年次で学習する「キャリアプランニング」の学習内容と「職業意識」「キャリア意識」の回答について、先の「産業社会と人間」と同様な分析を行った。「キャリアプランニング」の学習内容は2年次に学習するが、3年次生についても年次を超えて振り返り質問をしている。ここでは「キャリアプランニング」の学習直後に質問したデータである、2年次第2回アンケート(2月)を使用する。

表1 産業社会と人間の授業項目と「キャリア意識」・「職業意識」質問との関係 (p=0.0002)

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | f3 | f2 | f1 | f0 | 合計 | |
|--|--|--|--|--|--|--|--------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|
| 「産業社会と人間」授業内容 | キャリア意識質問 (01)入 学時よりも、将来 の職業や進路など、 自分で決めるよう になった | キャリア意識質問 (02)入 学時よりも、将来 の職業や進路など、 自分で決めるよう になった | キャリア意識質問 (03)入 学時よりも、将来 の職業や進路など、 自分で決めるよう になった | キャリア意識質問 (04)入 学時よりも、将来 の職業や進路など、 自分で決めるよう になった | キャリア意識質問 (05)入 学時よりも、将来 の職業や進路など、 自分で決めるよう になった | キャリア意識質問 (06)入 学時よりも、将来 の職業や進路など、 自分で決めるよう になった | 職業意識 質問 (1)職 業について考 えている | 職業意識 質問 (2)将 来の職業につ いて具体的に考 えている | 職業意識 質問 (3)今 後の進路につ いて具体的に考 えている | 職業意識 質問 (4)将 来の職業につ いて具体的に考 えている | 職業意識 質問 (5)進 学するならば、 何を重視して選 ぶ | 職業意識 質問 (6)進 学するならば、 何を重視して選 ぶ | 職業意識 質問 (7)進 学するならば、 何を重視して選 ぶ | 職業意識 質問 (8)進 学するならば、 何を重視して選 ぶ | 職業意識 質問 (9)進 学するならば、 何を重視して選 ぶ | 組 の カ テ ゴ リ に 差 が あ る 個 数 | 組 の カ テ ゴ リ に 差 が あ る 個 数 | 組 の カ テ ゴ リ に 差 が あ る 個 数 | 組 の カ テ ゴ リ に 差 が あ る 個 数 | 合計 |
| 産社01「聞く力と書く力のワーク」6人の担任の先生の話を読み、的確にポイントを捉えてメモを取る練習や聞く姿勢を学ぶ | 1 | 1 | 0.1 | 1 | 1 | 0.1 | | | | | 0.1 | | | 1 | 0 | 0 | 4 | 3 | 6 | 13 |
| 産社02 講演会「働くことの意味」 | | 2 | | | 1 | 1 | 0.1 | | | | | | | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 9 | 13 |
| 産社03「1系列履修授業 芸術、スポーツ、環境科学、食品科学、生活福祉、情報ビジネスの各系列の特徴的な授業を体験し、理解を深める」 【体験する】 | | 1 | 2 | 1 | 0.1 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | | | 1 | 0 | 1 | 6 | 1 | 5 | 13 |
| 産社04 講演「就業体験マナー講座 職場のマナーと礼法について学ぶ」 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | | | | | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 10 | 13 |
| 産社06 就業体験 各々の職場での就業体験の準備から就業体験まで 【体験する】 | | | | | | 1 | 0.1 | 0.1 | | | 1 | | | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 9 | 13 |
| 産社07 就業体験まとめと「就業体験発表」「礼状作成ノートのまとめ」発表用レポートと原稿を完成させる。就業体験を通じて学んだことをまとめ、発表する。 【発表する】 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 2 | 0 | 0 | 10 | 0 | 3 | 13 |
| 産社08 スタディサポートを活用した自己理解 | | 1 | 1 | | | | 1 | | | | | | | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 10 | 13 |
| 産社09「科目選択交流会」系列ごとのグループに分かれ、科目選択に関わる質問に対し 上級学年が回答する。自らの科目選択に活かす | | | | | 0.1 | 1 | | | | | 1 | | | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 10 | 13 |
| 産社10「ブドウ収穫体験」ワインに使われるブドウを農場で収穫し、地元産業に触れる 【体験する】 | | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | 0 | 1 | 1 | 0 | 11 | 13 |
| 産社11「上級学校見学」で調べた学校について、体験レポートを作成し、ポスター発表する 【発表する】 | 1 | 2 | 1 | 0.1 | | 2 | 1 | 1 | | 1 | | | | 1 | 0 | 2 | 5 | 1 | 5 | 13 |
| 産社12「労働者の義務と権利を学ぶ」 | 1 | 2 | | | | 1 | | | | | | | | 0.1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 10 | 13 |
| 産社14 図書館司書の先生から「本の探し方」や「図書館の活用法」について学ぶ | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 2 | 0 | 11 | 13 |
| 産社15 図書館実習 市立図書館で本を借りブックレポートやポップを作成する 【体験する】 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 11 | 13 |
| 産社17「ライフプラン作成ガイド」本校卒業生の話聞く | 0.1 | 0.1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | | | | 1 | | | 0.1 | 0 | 1 | 5 | 2 | 5 | 13 |
| 産社18 ライフプランを作成し、グループ発表する 【発表する】 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | 0 | 0 | 11 | 0 | 2 | 13 |
| 産社20「産業社会と人間」学習発表会 学んだことをまとめ、発表し、聞き合う 【発表する】 | 1 | 1 | 0.1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | 1 | | | 1 | 0 | 0 | 7 | 1 | 5 | 13 |
| 産社21 3年生の総合研究発表聞く | | 1 | 1 | | 2 | | | | | | | | | 0.1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 10 | 13 |
| f3 組のカテゴリーに差がある」検定の個数(a) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| f2 組のカテゴリーに差がある」検定の個数(b) | 0 | 4 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 9 |
| f1 組のカテゴリーに差がある」検定の個数(c) | 8 | 9 | 8 | 5 | 7 | 11 | 4 | 4 | 3 | 3 | 7 | 0 | 0 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 33.6 | 80 |
| 「差は見いだせるが多重比較できない」検定の個数(d) | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6.3 | 15 |
| 「差が見いだせない」検定の個数 | 8 | 3 | 7 | 10 | 7 | 5 | 9 | 12 | 14 | 14 | 9 | 17 | 17 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 56.3 | 134 |
| 合計 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 0 | 1 | 2 | 0 | 10 | 238 |
| 得点 (a)×3+ (b)×2+ (c)×0.1 | 8.1 | 17.1 | 10.1 | 5.2 | 9.2 | 13 | 6.3 | 4.1 | 3 | 3 | 7.1 | 0 | 0 | 13.3 | | | | | | |

群の間に全く差が見いだされない(検定が棄却できない)場合は0(空欄)で、差が見いだされる(検定が棄却できる)場合は、多重比較で差が見いだされる組み合わせの数である1,2,3であらわす。「群間に差は見いだされるが、多重比較でどの群間の差は見いだせない」場合は0.1であらわす。

表2 キャリアプランニングの授業項目と「キャリア意識」・「職業意識」質問との関係 (p=0.0002)

| キャリアプランニングの授業内容 | キャリア意識質問 (01) 入学時よりも、将来の職業や進路など、自分のことでは自分で決めようと思えるようになった | キャリア意識質問 (02) 入学時よりも、自分も、将来の職業や進路など、自分のことでは自分で決めようと思えるようになった | キャリア意識質問 (03) 入学時よりも、自分も、将来の職業や進路など、自分のことでは自分で決めようと思えるようになった | キャリア意識質問 (04) 入学時よりも、自分も、将来の職業や進路など、自分のことでは自分で決めようと思えるようになった | キャリア意識質問 (05) 入学時よりも、うまことや進路についてや、興味関心を持つようになった | キャリア意識質問 (06) 入学時よりも、職業についてや、興味関心を持つようになった | 職業意識質問 (1) 職業について考えることがある | 職業意識質問 (2) 将来の職業について具体的に考えている | 職業意識質問 (3) 今の職業について具体的に考えている | 職業意識質問 (4) 将来の職業について具体的に考えている | 職業意識質問 (5) 将来の職業について具体的に考えている | 職業意識質問 (6) 将来の職業について具体的に考えている | 職業意識質問 (7) 将来の職業について具体的に考えている | 職業意識質問 (8) 将来の職業について具体的に考えている | 職業意識質問 (9) 将来の職業について具体的に考えている | F3 組のカテゴリに差がある | F2 組のカテゴリに差がある | F1 組のカテゴリに差がある | 「差は見いだせない」検定の個数 | 「差は見いだせない」検定の個数 | 合計 |
|--|---|--|--|--|---|--|---------------------------|-------------------------------|------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|-----------------|------|
| | CP01 「スクールプランの作成」と「スクールプランの発表」内容 希望する系列分野に分かれ、グループごとに自分のスクールプランを分野別に発表しあう【発表する】 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| CP02 平和学習1 講演会「きけわたつみのこえ (2 年次生)」「戦時下の松本平について (3 年次生)」 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 | 15 |
| CP03 平和学習講演会「ノーマアヒバクシャ・ノーマアウター」 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 | 15 |
| CP04 夏休み中に各自がテーマを設定した「平和に関わるレポート」づくりと発表会【発表する】 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 | 15 |
| CP05 平和学習2 平和に関する意見文・感想文を作成する 前回の講演をもとに作文を書いて、コンクールに応募する | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 | 15 |
| CP06 平和学習講演会「平和学入門」 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 | 15 |
| CP07 「科目選択交流会」3 年生が下級生の科目選択に関わる質問に答え、より良い選択ができるようにする | | | | | 0.1 | 0.1 | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 2 | 13 | 15 |
| CP08 夏休み中のオープンキャンパスや就業体験学習【体験する】 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | 0 | 0 | 3 | 0 | 12 | 15 |
| CP09 「研修旅行」で上級学校・企業見学を行う【体験する】 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 0 | 0 | 1 | 0 | 14 | 15 |
| CP10 「研修旅行」で平和学習やクラス別別行動を行う【体験する】 | | | 0.1 | | | 2 | | | | | | | | 1 | | 0 | 1 | 1 | 1 | 12 | 15 |
| CP12 総合研究 ガイダンスと事前学習 論文にふさわしいテーマを考える | | | | | | 2 | | | | | | | | | | 0 | 1 | 0 | 0 | 14 | 15 |
| F3組のカテゴリに差がある 検定の個数 (a) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| F2組のカテゴリに差がある 検定の個数 (b) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1.2% |
| F1組のカテゴリに差がある 検定の個数 (c) | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 3.0% | |
| 「差は見いだせるが多重比較できない」検定の個数 (d) | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1.8% | |
| 「差は見いだせない」検定の個数 | 10 | 11 | 10 | 11 | 10 | 6 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 9 | 11 | | | | 155 | 93.9% | |
| 合計 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | | | | 165 | | |
| 得点 (a)×3+(b)×2+(c)×0.1 | 1 | 0 | 0.1 | 0 | 0.1 | 6.1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | | | | | | |

群の間に全く差が見いだされない（検定が棄却できない）場合は0（空欄）で、差が見いだされる（検定が棄却できる）場合は、多重比較で差が見いだされる組み合わせの数である1,2,3であらわす。「群間に差は見いだされるが、多重比較でどの群間の差かは見いだせない」場合は0.1であらわす。

「キャリアプランニング」の学習内容11個と「職業意識」「キャリア意識」回答15個の165通りについて、p=0.0002で検定し多重比較による結果を表2に示した。関連が見いだされた組み合わせは10個（6.1%）に過ぎない。つまり、「キャリアプランニング」の学習内容は「職業意識」「キャリア意識」との関連が小さく、これらの意識形成に効果が少なかったと考えられる。

学習内容との関連がある「職業意識」「キャリア意識」項目は次の5項目である。

- キャリア意識 (06) 「入学時よりも、職業や進路に関心を持つようになった」
- 職業意識 (8) 「将来、社会で積極的に働きたい」
- キャリア意識 (01) 「入学時よりも、将来の職業や進路など、自分のことは自分で決めようと思えるようになった」
- キャリア意識 (05) 「入学時よりも、うまくい

授業科目「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」が生徒の職業意識・キャリア意識の形成に与える影響

かないことや失敗することがあっても、ねばり強く取り組めるようになった」

キャリア意識 (03)「入学時よりも、将来、社会に出て行くことに自信が持てるようになった」

「産業社会と人間」の場合と比較すると、職業意識 (8) は、1年次のデータにはないため比較対象外とすると、学習内容との関連があるのは4

つすべてが「キャリア意識」質問である。

職業意識 (8) を除く4つの項目キャリア意識 (06) (01) (05) (03) に注目すると関連を示す学習内容は次の各項目である。

10 「研修旅行」で平和学習やクラス別班別行動を行う

12 総合研究 ガイダンスと事前学習 論文にふさわしいテーマを考える

表3 キャリアデザインの授業項目と「キャリア意識」・「職業意識」質問との関係 (p=0.0002)

| キャリアデザインの 授業内容 | キャリア意識質問 (01) 入学時よりも、将来、職業や進路など、自分自身を決めようと思えるようになった | キャリア意識質問 (02) 入学時よりも、自分自身を決めようと思えるようになった | キャリア意識質問 (03) 入学時よりも、将来、社会に出て行くことに自信が持てるようになった | キャリア意識質問 (04) 入学時よりも、自分の意見を発せようと思った | キャリア意識質問 (05) 入学時よりも、うまくいかなかったことがあった | キャリア意識質問 (06) 入学時よりも、職業や進路について考えるようになった | 職業意識質問 (1) 職業について考えることがある | 職業意識質問 (2) 将来の職業について興味がある | 職業意識質問 (3) 今の職業について興味がある | 職業意識質問 (4) 将来の職業について興味がある | 職業意識質問 (5) 進路について興味がある | 職業意識質問 (6) 進路について興味がある | 職業意識質問 (7) 進路について興味がある | 職業意識質問 (8) 進路について興味がある | 職業意識質問 (9) 進路について興味がある | 「3組のカテゴリに差がある」検定の個数 (a) | 「2組のカテゴリに差がある」検定の個数 (b) | 「1組のカテゴリに差がある」検定の個数 (c) | 「差は見いだせるが多重比較できない」検定の個数 (d) | 「差が見いだせない」検定の個数 | 合計 |
|---|---|--|--|-------------------------------------|--------------------------------------|---|---------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------------|-----------------|----|
| | CD01 入試スケジュール調べ、志願先と志願分野の研究 (自己分析、志願先の情報、志望分野の時事問題、志願理由書作成、同じ分野を目指す仲間発表) 【発表する】 | 1 | | | 1 | 1 | 0.1 | | 2 | | | | | | 1 | 1 | 0 | 1 | 5 | 1 | 8 |
| CD02 ディベート 調べたデータに基づき、意見発表、相手チームからの質問をうけ、論理的に主張し相手を取捨することの大切さを学ぶ 【発表する】 | | | 1 | | 1 | | | 1 | | | | | | 1 | | 0 | 0 | 5 | 0 | 10 | 15 |
| CD03 昨年度の3月に本校を卒業した6人の先輩の話を聞く会 先輩から3年生へのメッセージ | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | 0 | 0 | 3 | 0 | 12 | 15 |
| CD04 科目選択交流会 事前に12年生に「悩んでいること」「先輩に相談したいこと」を挙げてもらい、その質問に上級生が答える 【発表する】 | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | 0 | 0 | 6 | 0 | 9 | 15 |
| CD05 模擬面接 (個人、集団) | 1 | | | | 1 | | 0.1 | 1 | | | | | | 1 | | 0 | 0 | 4 | 1 | 10 | 15 |
| CD06 模擬面接 (グループディスカッション) | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 | 15 |
| CD07 主催者教育 選挙について今思っていることを生徒同士グループディスカッションする | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | 11 | 15 |
| CD08 主催者教育 模擬投票を行う 【体験する】 | 1 | 0.1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | 0 | 0 | 6 | 1 | 8 | 15 |
| CD09 主催者教育 身近な大人とグループディスカッションにより意見交換 【発表する】 | | | 0.1 | 1 | 1 | | | | | | | | | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 | 1 | 10 | 15 |
| CD10 ピアサポート (商工会コラボ) 地元商工会の方に講師をお願いし、各系列で地元企業を知るための講演を聞く | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 2 | 0 | 13 | 15 |
| CD11 総合研究発表準備を行い、クラス発表を行う 【発表する】 | | 2 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | 1 | | 0 | 1 | 4 | 0 | 10 | 15 |
| CD12 総合研究発表会に参加する 【発表する】 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | | | 1 | 1 | 0 | 0 | 11 | 0 | 4 | 15 |
| 「3組のカテゴリに差がある」検定の個数 (a) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 「2組のカテゴリに差がある」検定の個数 (b) | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1.1% | |
| 「1組のカテゴリに差がある」検定の個数 (c) | 5 | 2 | 1 | 8 | 8 | 8 | 1 | 1 | 3 | 0 | 1 | 0 | 1 | 9 | 6 | 54 | 30.0% | | | | |
| 「差は見いだせるが多重比較できない」検定の個数 (d) | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 2.2% | |
| 「差が見いだせない」検定の個数 | 7 | 8 | 10 | 4 | 4 | 4 | 10 | 10 | 8 | 12 | 11 | 12 | 11 | 12 | 11 | 3 | 6 | 120 | 66.7% | | |
| 合計 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | | | | | 180 | |
| 得点 (a) × 3 + (b) × 2 + (c) × 0.1 | 5 | 4.1 | 1.1 | 8 | 8 | 8 | 1.1 | 1.1 | 5 | 0 | 1 | 0 | 1 | 9 | 6 | | | | | | |

群の間に全く差が見いだされない (検定が棄却できない) 場合は0 (空欄) で、差が見いだされる (検定が棄却できる) 場合は、多重比較で差が見いだされる組み合わせの数である1,2,3であらわす。「群間に差は見いだされるが、多重比較でどの群間の差は見いだせない」場合は0.1であらわす。

08 夏休み中のオープンキャンパスや就業体験学習

09 「研修旅行」で上級学校・企業見学を行う

07 「科目選択交流会」3年生が下級生の科目選択に関わる質問に答え、より良い選択ができるようにする

(3) 「キャリアデザイン」の学習項目と「職業意識」「キャリア意識」との関連

3年次で学習する「キャリアデザイン」の学習内容12個と「職業意識」「キャリア意識」15個の回答についても、180の組み合わせについて $p=0.0002$ で同様の分析を行った。結果を表3に示す。関連が見いだされた組み合わせは、60個(33.3%)である。「産業社会と人間」よりは関連する組み合わせは少ないものの、2年次の「キャリアプランニング」よりも多い。

学習内容との関連がある「職業意識」「キャリア意識」項目はここでも「キャリア意識」との関連が強い傾向が見られる。得点の多い項目の6位

までを挙げると次のようになる。

職業意識 (8) 「将来、社会で積極的に働きたい」

キャリア意識 (04) 「入学時よりも、自分の意見を発言できるようになった」

キャリア意識 (05) 「入学時よりも、うまくいかないことや失敗することがあっても、ねばり強く取り組めるようになった」

キャリア意識 (06) 「入学時よりも、職業や進路に関心を持つようになった」

職業意識 (9) 「働くことを体験して(中学・高校の就業体験など)将来、働くことのイメージを持っている」

職業意識 (3) 「今後の進路と職業について具体的に考えている」

キャリア意識 (01) 「入学時よりも、将来の職業や進路など、自分のことは自分で決めようと意識するようになった」

職業意識(8)は参考として記載した。職業意識(3)

表4 学習内容に関連の強い意識項目 ○印は関連が強い

| 授業内容と関連が強い上位6項目(職業意識(8)は参考) | 産業社会と人間 | キャリアプランニ | キャリアデザイン |
|---|---------|----------|-----------|
| 検定 p 値0.0002で 関連のあった組み合わせの数 (%) | 43.7% | 6.1% (注) | 33.3% (注) |
| 職業意識 (3) 今後の進路と職業について具体的に考えている | | | ○ |
| 職業意識 (9) 働くことを体験して(中学・高校の就業体験など) 将来、働くことのイメージを持っている | ○ | | ○ |
| キャリア意識 (01) 入学時よりも、将来の職業や進路など、自分のことは自分で決めようと意識するようになった | ○ | ○ | ○ |
| キャリア意識 (02) 入学時よりも、自分で考えたり、行動したりするようになった | ○ | | |
| キャリア意識 (03) 入学時よりも、将来、社会に出て行くことに自信が持てるようになった | ○ | ○ | |
| キャリア意識 (04) 入学時よりも、自分の意見を発言できるようになった | | | ○ |
| キャリア意識 (05) 入学時よりも、うまくいかないことや失敗することがあっても、ねばり強く取り組めるようになった | ○ | ○ | ○ |
| キャリア意識 (06) 入学時よりも、職業や進路に関心を持つようになった | ○ | ○ | ○ |
| 職業意識 (8) 将来、社会で積極的に働きたい(参考掲載) | — | ○ | ○ |

(注) この数値には職業意識(8)が含まれている。職業意識(8)を除いた場合はキャリアプランニング5.2%、キャリアデザイン30.4%である。

(9)、およびキャリア意識 (01) (04) (05) (06) に注目して学習内容との関連を見ると、CD06 模擬面接 (グループディスカッション) 以外のすべての学習内容が関連している。

(4) B 高校で形成されているキャリア意識

学習内容に関連の強い意識上位 6 項目を表 4 にまとめた。これをみると「キャリア意識」質問が 6 個すべて入っている。「職業意識」質問は 2 つである。このことから B 高校の「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」の学習内容で形成される意識は、「職業意識」というより、「キャリア意識」であることがわかる。

細かく見ると、「職業意識 (9) 働くことを体験して (中学・高校の就業体験など) 将来、働くことのイメージを持っている」項目は、「産業社会と人間」と「キャリアデザイン」の授業内容と強い関連をもっている。「職業意識 (3) 今後の進路と職業について具体的に考えている」項目は卒業学年である 3 年次生の「キャリアデザイン」の授業内容と強い関連がある。

一方、キャリア意識 (04) 「入学時よりも、自分の意見を発言できるようになった」は、3 年次生の「キャリアデザイン」の授業内容と強い関連が確認できた。自分の意見を発言できるようになるには、生徒にとっては訓練の場と一定の時間が必要となる。このキャリア意識 (04) の肯定回答が 3 年次に大きく増加することは前に確認したが、そのこととも符合している。

1 年次に質問できなかったため参考に掲載した「職業意識 (8) 将来、社会で積極的に働きたい」については「キャリアデザイン」と「キャリアプランニング」の 2 科目において、最も強い学習内容との関連がみられる。

5 キャリア意識の形成に関連の強い授業内容について

最後に、B 高校の「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」が形成し

ているのは「キャリア意識」であるとして、どの学習項目が「キャリア意識」形成に関連しているかを、その強弱を含めて検討する。データは 4 で使用したものと同じであるが、学習内容の回答は①「とても将来のためになると思う」②「やや将来のためになると思う」③「どちらとも言えない」④「あまり将来のためにならないと思う」⑤「まったく将来のためにならないと思う」の 5 個をそのまま使用する。

「キャリア意識」の質問 6 個と学習内容の質問である「産業社会と人間」17 個、「キャリアプランニング」11 個、「キャリアデザイン」12 個との Spearman 順位相関係数 (以下「相関係数」と記す) を求める。6 個 \times 40 個 = 240 個の相関係数を表 5 にして示す。相関係数を学習内容毎に平均した値を「キャリア意識」と学習内容の関連を示す量と考え、「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」別に相関係数の平均をグラフにして図 3 として示す。

図 3 を見ると学習内容の「キャリア意識」形成への関連は「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」毎に大きな違いが存在する。「産業社会と人間」の関連は大きく相関係数は 0.22 ~ 0.34 に「キャリアデザイン」は 0.21 ~ 0.38 で分布するが、「キャリアプランニング」は 0.1 ~ 0.23 に分布しており、「キャリアプランニング」の「キャリア意識」形成への関連は他に比べきわめて小さい。

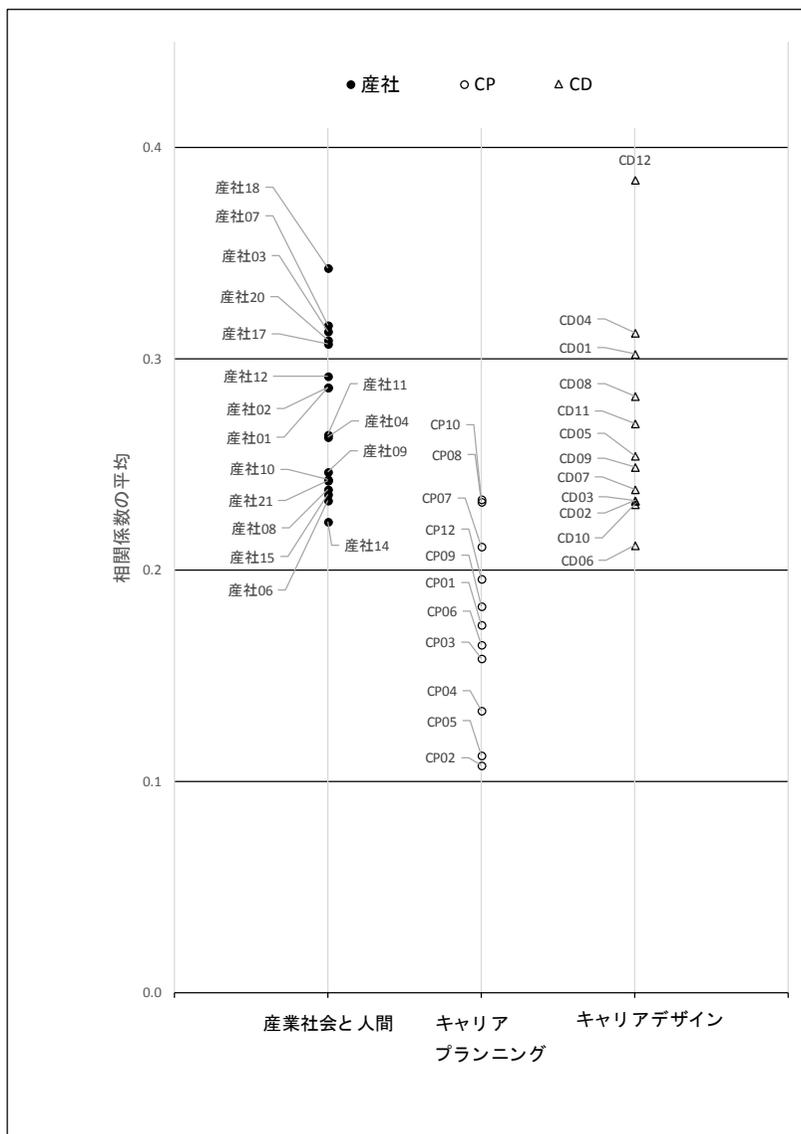
「キャリアプランニング」は他の 2 つの科目と違い、その内容は学校行事に関わる内容を多く含んでいる。「キャリアプランニング」のうち、相関係数の小さい下位 5 項目の学習内容である CP02「平和学習 1 講演会『きけわだつみのこえ』」、CP05「平和学習 2 平和に関する意見文・感想文を作成する 前回の講演をもとに作文を書いて、コンクールに応募する」、CP04「夏休み中に各自がテーマを設定した『平和に関するレポート』づくりと発表会」、CP06「平和学習講演会 平和学入門」、CP03「平和学習講演会 ノーモア

表5 学習内容とキャリア意識質問との相関係数

| 質問 | キャリア意識質問 (01) | キャリア意識質問 (02) | キャリア意識質問 (03) | キャリア意識質問 (04) | キャリア意識質問 (05) | キャリア意識質問 (06) | 平均 |
|------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-------|
| 産社01 | 0.304** | 0.323** | 0.200** | 0.280** | 0.291** | 0.320** | 0.286 |
| 産社02 | 0.243** | 0.354** | 0.266** | 0.231** | 0.307** | 0.319** | 0.287 |
| 産社03 | 0.181** | 0.343** | 0.359** | 0.287** | 0.346** | 0.360** | 0.313 |
| 産社04 | 0.301** | 0.261** | 0.212** | 0.190** | 0.300** | 0.312** | 0.263 |
| 産社06 | 0.204** | 0.239** | 0.157* | 0.230** | 0.253** | 0.315** | 0.233 |
| 産社07 | 0.293** | 0.342** | 0.314** | 0.288** | 0.351** | 0.307** | 0.316 |
| 産社08 | 0.235** | 0.323** | 0.278** | 0.141* | 0.223** | 0.231** | 0.239 |
| 産社09 | 0.225** | 0.243** | 0.257** | 0.156* | 0.286** | 0.311** | 0.246 |
| 産社10 | 0.194** | 0.382** | 0.267** | 0.216** | 0.226** | 0.174** | 0.243 |
| 産社11 | 0.271** | 0.327** | 0.261** | 0.200** | 0.241** | 0.284** | 0.264 |
| 産社12 | 0.298** | 0.370** | 0.262** | 0.232** | 0.252** | 0.336** | 0.292 |
| 産社14 | 0.235** | 0.258** | 0.283** | 0.163* | 0.171** | 0.228** | 0.223 |
| 産社15 | 0.260** | 0.277** | 0.225** | 0.159* | 0.226** | 0.270** | 0.236 |
| 産社17 | 0.277** | 0.298** | 0.328** | 0.320** | 0.322** | 0.298** | 0.307 |
| 産社18 | 0.305** | 0.366** | 0.403** | 0.319** | 0.333** | 0.331** | 0.343 |
| 産社20 | 0.293** | 0.341** | 0.307** | 0.321** | 0.330** | 0.262** | 0.309 |
| 産社21 | 0.148* | 0.253** | 0.293** | 0.187** | 0.351** | 0.222** | 0.242 |
| CP01 | 0.203** | 0.160* | 0.248** | 0.119 | 0.092 | 0.223** | 0.174 |
| CP02 | 0.134* | 0.087 | 0.140* | 0.007 | 0.119 | 0.160* | 0.108 |
| CP03 | 0.184** | 0.140* | 0.175** | 0.092 | 0.129 | 0.231** | 0.159 |
| CP04 | 0.143* | 0.071 | 0.142* | 0.121 | 0.176** | 0.148* | 0.133 |
| CP05 | 0.137* | 0.089 | 0.158* | 0.023 | 0.184** | 0.085 | 0.113 |
| CP06 | 0.185** | 0.152* | 0.179** | 0.121 | 0.129 | 0.222** | 0.165 |
| CP07 | 0.247** | 0.146* | 0.170* | 0.140* | 0.270** | 0.294** | 0.211 |
| CP08 | 0.302** | 0.224** | 0.164* | 0.140* | 0.221** | 0.342** | 0.232 |
| CP09 | 0.190** | 0.144* | 0.161* | 0.124 | 0.193** | 0.286** | 0.183 |
| CP10 | 0.228** | 0.213** | 0.257** | 0.202** | 0.187** | 0.313** | 0.233 |
| CP12 | 0.208** | 0.184** | 0.153* | 0.159* | 0.197** | 0.276** | 0.196 |
| CD01 | 0.319** | 0.255** | 0.252** | 0.274** | 0.329** | 0.384** | 0.302 |
| CD02 | 0.203** | 0.177** | 0.189** | 0.294** | 0.225** | 0.311** | 0.233 |
| CD03 | 0.327** | 0.218** | 0.151* | 0.169* | 0.204** | 0.327** | 0.233 |
| CD04 | 0.268** | 0.309** | 0.239** | 0.359** | 0.376** | 0.323** | 0.312 |
| CD05 | 0.286** | 0.213** | 0.206** | 0.250** | 0.238** | 0.331** | 0.254 |
| CD06 | 0.212** | 0.171** | 0.152* | 0.253** | 0.218** | 0.265** | 0.212 |
| CD07 | 0.156* | 0.203** | 0.235** | 0.298** | 0.295** | 0.244** | 0.239 |
| CD08 | 0.254** | 0.256** | 0.239** | 0.341** | 0.324** | 0.279** | 0.282 |
| CD09 | 0.172** | 0.229** | 0.248** | 0.277** | 0.314** | 0.253** | 0.249 |
| CD10 | 0.167* | 0.203** | 0.219** | 0.309** | 0.272** | 0.218** | 0.231 |
| CD11 | 0.234** | 0.283** | 0.189** | 0.366** | 0.289** | 0.254** | 0.269 |
| CD12 | 0.392** | 0.337** | 0.326** | 0.407** | 0.442** | 0.403** | 0.385 |

** 相関係数は1%水準で有意(両側)、* 相関係数は5%水準で有意(両側)である。(帰無仮説:相関係数は0である)

図3 「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」別学習内容とキャリア意識質問との相関係数の平均



ヒバクシャ・ノーモアウォー」は修学旅行行事の一環としても位置づけられるものである。自ら考え、考えを発表する力をつける内容を含んでいるが、キャリア教育を正面から取り扱うものではない。むしろ、この学習内容は、学校行事の事前学習として別のねらいを含む取り組みであるとも考えられる。

それを考慮しても、「キャリアプランニング」

の学習内容全体は、相関係数が小さいことがうかがえる。総合学科主任の教諭への聞き取り調査によると、B高校ではキャリア教育の授業について見直しをしており、本調査の年度までに「産業社会と人間」「キャリアデザイン」の見直しを終え、「キャリアプランニング」については、これから見直しが始まるということであった。

キャリア意識形成に関連の強い学習内容を見る

と、産社 18「ライフプランを作成し、グループ発表する」産社 07「就業体験まとめと就業体験発表、礼状作成ノートまとめ、発表用レポートと原稿を完成させる。就業体験を通じて学んだことをまとめ、発表する」、産社 03「系列模擬授業 芸術、スポーツ、環境科学、食品科学、生活福祉、情報ビジネスの各系列の特徴的な授業を体験し、理解を深める」、産社 20「『産業社会と人間』学習発表会 学んだことをまとめ、発表し、聞き合う」CD12「総合研究発表会に参加する（3年次生の発表）」、CD04「科目選択交流会 事前に1, 2年生に『悩んでいること』『先輩に相談したいこと』を挙げてもらい、その質問に上級生が答える」、CD01「入試スケジュール調べ、志願先と志願分野の研究（自己分析、志願先の情報、志望分野の時事問題、志願理由書作成、同じ分野を目指す仲間の発表）」である。

ここに挙げる学習内容の形態は、発表型である。自らの考えをまとめ、発表する機会が設けられている授業が、キャリア意識形成に強く関連していることがうかがえる。また、進路と科目選択に関わる学習内容が多いことも特徴である。特に1年次と2年次の学習内容は、科目選択と総合研究の内容を決めていく過程にあるので、それらの項目が挙がっている。最も「キャリア意識」形成に関連の強いのは3年次のCD12「総合研究発表会に参加する」である。1年次の産社 21や2年次生のCPI2は総合研究発表会に参加する授業内容であるが、それほど関連が強いとは言えない。キャリア意識形成との関連は、3年次生が発表する側として参加していることが重要であることがよくわかる。

6 総括

本調査では、第1に、B高校における「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」の授業内容は、職業に向かおうとする意識である「職業意識」よりも、将来の進路は自ら探求し、自己決定し、実現していかねばならないという自覚、また、そのために必要な汎用的能力

を身につけようとする意識である「キャリア意識」の形成に効果があることを見いだした。

第2に、個々の学習内容が「キャリア意識」形成に関連している強弱を求めることにより、「産業社会と人間」「キャリアデザイン」より「キャリアプランニング」の授業内容の方が弱いことを見いだした。また、「キャリア意識」形成に関連の強い授業内容は、自らの考えをまとめ、発表する要素を含む授業であることを見いだした。

方法においては、前者では、群間の分布の差を求める Kruskal-Wallis 検定多重比較を用い、後者では、Spearman 順位相関係数を使用した。前者の結論も相関係数を用いて得ることは可能であるが、ここでは、感覚的に確認しやすい Kruskal-Wallis 検定多重比較を用いる方法をとった。

<付記>

本論文は、科学研究費補助金（基盤研究C）「総合学科『産業社会と人間』の職業・キャリア教育の効果とモデル構築」（平成26年度～28年度、課題研究番号26381286、研究代表者・太田政男）に基づく研究成果の一部をまとめたものである。

注

- 1) 児美川孝一郎「総合学科は生徒にいかなる意識・能力を育てているか」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』第14号、2016年、を参照。本稿は、上記論文では詳細に伝えることのできなかった根拠データ等を示すという意味での補完的役割を果たすものであり、同時に、さらに分析視点を深めたという意味では、事実上の続稿に当たるものである。
- 2) B高校公式ホームページより（2016年度）
- 3) 文部省初等中等教育局長通知「総合学科について」1993年3月22日
高等学校教育の改革の推進に関する会議、『総合学科について（報告）』平成5年2月12日
- 4) 対応サンプルによる符号検定 ($p < 0.05$)
- 5) Kruskal-Wallis 検定 ($p < 0.05$) で多重比較

Influences of Course Subjects “Industrial society and people” “Career planning” “Career design” on Formation of Occupation and Career Awareness: Based on the Investigation of B High School in A Prefecture (2)

HARA Kenji
KOMIKAWA Koichiro

The purpose of this paper is to clarify what awareness and competences the comprehensive course curriculum of high school raises for students. In order to approach this aim, we conducted several surveys with some cooperative researchers including successive questionnaire surveys for students and frequent interviews with teachers. As a result of comprehensive analysis, we could find out the following three points.

First, the comprehensive course curriculum

of high school raises for students not the occupational awareness but the career awareness.

Second, the influence on the formation of students' career awareness varies depending on course subjects and on learning contents.

Third, the method of learning that students summarize their thoughts and present their study contents for themselves is effective for forming students' career awareness